

令和3年度 県立日立北高等学校自己評価表

目指す学校像	(1) 全ての生徒が「学ぶ」喜びを実感し、自己実現を果たせるような「学び舎」をつくる。 (2) 校訓「誠実・克己・創造」の実践に努め、豊かな創造性や進取の精神に満ちた校風を継承し、発展させる。 (3) 学習活動と特別活動等との両立を推進し、生徒一人ひとりに自らの未来を切り拓く知性・能力を身につけさせる。 (4) 生徒一人ひとりを大切にすることを実践し、生徒・保護者・地域住民に信頼される「地域に開かれた学校」づくりを推進する。		
昨年度成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
(学習指導) [成果]令和3年度入試の国公立大学現役合格者数は72名であった。一人ひとりの進路希望を多様な入試形態に対応して検討するなど、3年間を見通した継続的な学習指導やキャリア支援等の成果といえる。1年生の地域探究を経て、2年生で沖縄探究学習を取り入れた修学旅行を実施し、生徒の自主性・行動力・発信力が向上した。 [課題]新学習指導要領や大学入学共通テスト導入に対応できる学力の3要素を育成する授業を研究していく。 (豊かな心の育成) [成果]生徒は穏やかで協調性があり、落ち着いた学校生活を送っている。システム手帳の活用は、時間管理・自己管理に寄与している。 [課題]主体的に課題を見つけ、分析・判断し、自己を表現できる生徒の育成に努めていく。 (学習活動と部活動・特別活動の両立) [成果]部活動・生徒会活動に積極的に参加しており、部活動加入率は8割を超えている。令和3年度国公立大学現役合格者に占める部活動加入者の割合は91.7%で、昨年度より上昇した。 [課題]学びに向かう力・学び続ける頑健な心身の育成に努めていく。 (今後のビジョン) 丁寧な学習指導を継続し生徒の可能性を広げ、進路希望を実現する。豊かな人間力と課題解決力を備えた人材を輩出する進学校として、地域からの信頼を得る。	(1) 生徒の進路希望に応じた学力向上の推進	1 習熟度別授業などの個に応じた指導を、柔軟かつ多様に導入し、基礎的な知識・技能の習得を図る。 2 互見授業等を通して、思考力・判断力・表現力を育成する授業研究、指導力向上に努める。 3 生徒の進路希望に応じた適切な課題を取り入れ、ICTの活用を推進する等、自ら学び続ける力を育成する。	
	(2) 入りたい大学への積極的な挑戦	4 個別面談を充実させ、生徒の自己理解の深化と自己受容を促し、学びに向かう力を涵養する。 5 様々な進路行事の目的を明確化し、効果的な実践と振り返りを行うことで生徒の学習意欲を喚起し、適切な勤労観・職業観を育成する。 6 進路情報の収集と的確な提供に努め、生徒一人ひとりの進路に複数の教員がサポートする協力体制を構築する。 7 課外指導においては、習熟度別講座等を取り入れて効果的な指導に努める。	
	(3) 「豊かな心」の育成	8 環境教育やボランティア活動を推進し、他者への思いやりを育み、いじめには組織全体で迅速に対応する。 9 相手の立場になって考え、行動できる人間性を育み、SNS使用の自己管理能力を高める。 10 国際理解教育を推進し、グローバル社会で活躍できる人材育成を目指す。 11 コンプライアンスを遵守するとともに、体罰・暴言によらない指導を実践する。 12 特別な配慮を要する生徒への、共通理解を図り、合理的配慮や適切な支援について研修を深める。	
	(4) 学習活動と部活動・特別活動の両立	13 部活動の一層の活性化を図り、生徒の自己肯定感を育てる。 14 特別活動(ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事)を充実させ、キャリアパスポートを活用し規律や協働性を養う。	
	(5) 健康と安全への配慮	15 健康教育の推進や環境整備を通して、生徒及び教職員の健康の維持・増進を図る。 16 生徒相談の充実努め、スクールカウンセラーと連携し生命の大切さを理解させる。 17 学校行事の精選、業務の適正化・効率化を検討し、教員の働き方改革を促進する。	
	(6) 情報公開の積極化	18 学校評議員会・PTA・同窓会等との連携を強化し、情報公開に努める。 19 学校説明会(夏・秋)の内容を充実させ、中学校・学習塾等への訪問を積極的に実施し、生徒数確保に努める。 20 スクールガイドの内容を刷新し、ホームページの更新頻度を高め、広報体制を充実させる。 21 「学年だより」「学級通信」「進路情報」「保健だより」等を通して、必要な情報を生徒・保護者に提供する。	
	(7) 今後のビジョンの具体化と、ビジョンに沿った教育活動の展開	22 本校の将来像を見据え、グランドデザインに基づき教育活動を展開する。 23 地域の中の学校として、普通科の在り方について検討を進める。	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教科指導	理解を深める指導	学習の目的・内容を明らかにし、わかる授業の展開に努める。	1, 2	
	積極的な学習態度の育成	習熟度別授業や課題学習を通して、自ら課題を見付け解決する能力を養う。	3, 4	
国語	基礎学力の向上	予習・復習の取り組みを習慣化させ、家庭学習の定着を図る。	1	
		小テスト等を実施して学力の把握に努めるとともに、ICTの活用などで展開を工夫し、生徒が主体となる学びの場を設定する。	1, 2	
	大学進学に対応した学力の向上	課外等を実施し、問題の演習を重ねながら基礎力を高め、応用力の向上を図る。	3, 7	
地歴	基礎学力の向上を図る。	シラバス等に基づいた授業を展開し、系統的な指導による知識の理解をすすめる。	1, 2	
	家庭学習の定着に努める。	ドリル等を実施し、授業内容の定着を図る。ICTを活用して知識の習得を図る。	1, 3	
公民	大学進学に対応した学力の向上	小論文指導を通して、思考・判断力の醸成に努める。	1, 3	
	公民的思考力を養う。	時事問題に関心を持たせ、自己の在り方・生き方を考えさせる。ネットワークを活用して目的に応じて様々な情報を集める。	3, 10	
数学	基礎学力の向上を図る。	演習・授業で少人数授業や習熟度別授業を積極的に活用し、生徒が学習しやすい環境をつくる。	1	
		生徒の実態に応じて教材研究や授業研究を行い、分かりやすい授業を実践し、基礎学力の向上を図る。	2	
	家庭学習の定着に努める	副教材を用いて計画的に授業の復習をする。習慣が身に付くよう、定期的にノートを点検する。また、スタディサプリ等の利用を推進し、自ら学習する姿勢を養う。	3	
	大学進学に対応した学力の向上	予習、授業、復習のサイクルを確立させる。特に復習をしっかりと行わせることにより「基礎力」から「応用力」の向上を図る。 模擬試験・入試問題を分析し、授業、ドリル、課外等での適切な教材等を提供する。	3 7	
理科	基礎学力の向上を図る。	小テストやドリルなどを実践し、一人ひとりの学力を把握し学力向上を図る。	1, 2	
	科学的思考力・判断力を養う。	必要に応じてインターネット等を活用し、教科内容と身近な科学技術・日常生活の関連について考察を深める力を育成する。	2, 3	
		実験・観察を通し、科学的に判断する力を育成する。	2, 3	
保健体育	授業時間の確保	集合時間を厳守させ、チャイムと同時に授業が始められるようにする。	1, 16	
	頑健な体力と強靱な精神の涵養につとめる。	準備運動や補強運動を工夫し、継続的に体力の向上を図る。	2, 13	
		安全に留意し、自己の体力レベルを確認しつつ常に向上を図る。	2, 13	
		ICTを活用し、知識及び技術の習得を図る。	1, 2	
	健康の保持増進に努める	感染症の予防や心身の健康について理解を深める。	28	
芸術	基礎基本の重視	必要に応じてICTを活用しながら個々の表現に応じ、基礎・基本に重点を置き、技術・技能を修得させる。	2, 4	
	鑑賞能力の育成	インターネットやAV機器を活用し、より多くの芸術作品に触れさせ、鑑賞能力を伸ばす。	2	
	評価法の工夫	自己評価や、生徒間の相互評価により、自らの表現に対し客観的な視点を持たせる。	1	
外国語(英語)	基礎学力の向上を図る。	確認テスト等を利用し、生徒一人一人の到達度を把握し、学力の向上を図る。	1	
		定期考査・模擬試験等の結果を生徒にきめ細かくフィードバックし、学習への取り組みに反映させる。	1, 4	
	家庭学習の定着に努める。	家庭学習の内容を具体的に指示し、ノート提出や小テストで実施状況を確認する。	1, 3	
		声かけを丁寧に行うことにより、家庭学習の重要性を認識させるとともに、継続させ習慣化を図る。	2, 12	
	受験に対応できる確かな学力を身につけさせる。	ICTを活用や教材の精選によって、密度の濃い授業を展開する。 課外授業を通じて、一人一人の進路希望に応じた問題演習を課し、学力の向上を図る。	2, 3 1, 7	

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
家庭	将来を見据えた自立への意識の高揚	今までの自分を見つめる活動と、様々な人の生き方や問題点を探る活動をとおして、将来を見つめ、自立への意識を高める。自分の生活をデザインしようとする意識の高揚を図る。	3, 5, 6		
		実習・体験学習・ICTの活用をとおして、技術の習得を図り、実践的な力を育成する。	1, 8, 12		
		グループ活動をとおして、協働や協調性を育成する。	9, 12		
		生活課題を見つけ解決していく実践的な態度を育成する。	1, 8		
		課題を解決するために思考し、判断した内容をレポート等でまとめる力を育成する。	3, 5, 12		
	自立した生活に必要な知識・技術の定着を図るとともに、適切な価値判断と意思決定をする力の育成	情報通信ネットワークとコミュニケーションについてその仕組みの理解とマナーについて理解させる。(コミュニケーションにおける情報ネットワークの活用、ネチケット、電子メール、SNS)	9		
		情報の収集・発信の方法を実習をとおして具体的に理解させる。(情報検索、デジタルプレゼンテーション)	1		
		各種メディアから進路に関する情報を収集・整理し、自己の在り方生き方について主体的に考えさせる。	3, 6		
		情報化の推進と社会への影響及びその功罪について考えさせる。	2		
		情報社会に参画する態度を育成する。			
教務	授業時間の確保	調整日を設けるなど工夫して授業実施時間に不均衡が生じない年間計画の策定を行う。	1, 17		
	授業力向上の推進	積極的な互見授業を通して、生徒の学力向上に不可欠なICT教育の推進と授業力の向上を図る。	2, 3		
	学力向上の推進	達成目標に準拠した学習内容・方法について教科シラバスの再検討を行い、「分かる授業」を実施する。	1, 3		
	自ら課題を見つけ自ら学ぶ力の育成	すべての教科で主体的に学ぶ学習場面を増やすとともに、3年間を見通した「総合的な探究の時間」の指導を通して自ら学ぶ意欲を向上させ、学ぶ喜びを実感させる。	3, 5, 10		
	教育課程編成の研究	新学習指導要領に対応し、生徒にきめ細かく対応できる教育課程への移行を行う。	11, 12, 22		
生徒指導	学年の協力体制作り	生徒に関する情報交換を密にする。	9, 16		
	生徒の現状把握	生徒指導に関する情報、資料の収集と提供に努める。	8, 12, 16		
		容儀指導を徹底し、端正で高校生らしい服装・マナーの維持を図る。	8, 9		
		登校指導の継続的実施によって、あいさつや身だしなみが整った生徒の育成に努める。	9, 15		
		教育相談の充実を図り、生徒の理解に努め、問題の早期発見・早期解決を図る。	16		
		幅広く客観性が担保されるよう校則の点検・見直しに取り組む	11		
	事故の未然防止	登校指導・自転車乗車指導や被害調査を実施し、事故の未然防止に努める。	8		
		さわやかマナーアップ運動の積極的な実践を推進する。	8, 9		
		貴重品の管理を徹底し、盗難の防止に努める。	8, 9		
	生徒の意識の高揚	日立北高生としての自覚を持たせ、学校への「学び舎」としての意識を涵養する。	4		
「道徳」や「道徳プラス」においてICTを活用した「心の教育」を実施し、生徒の規範意識を涵養する。		9			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
進路指導	生徒の適切な進路選択の支援	生徒の主体的な進路選択が支援できるように、個別面談を充実させる。そのために、入試情報などの各種情報を整理して、担任や生徒・保護者に適切に提供する。	4,6 21	
		職業観育成セミナー、進路観育成セミナー、大学模擬授業など、進路関連の様々な行事を通して、生徒が自分の将来について真剣に考える機会を設ける。また、行事内容のより一層の充実と精選を図る。	5,6 14,17	
		茨城大学工学部インターンシップ、一日看護体験などの希望者対象の各種進路体験を生徒に積極的に案内し、自分の進路に対する視野を広げる機会を増やす。	5,6 14	
	生徒の基礎学力の向上	授業を中心とした予習・復習の習慣を定着させる。そのためにシステム手帳の活用や、スタディサブリの活用・普及に向けて、学年や担任をサポートする。	3,4	
		実力養成のための学習機会を確保するため、朝ドリル・小論文指導・面接指導・実技指導・模擬試験・平常課外・長期休業日課外等を実施する。また、土曜登校日・早朝夜間自習室開放・休日自習室開放への積極的参加を推進する。	1,3 7	
		入試問題や入試情報・受験報告書等の整理と適切な提供に努め、学習意欲の喚起と学力の向上を図る。	3,6 21	
	指導のノウハウの継承	職業探究、学問探究、地域探究、沖縄探究という一連の探究活動を通して、自分で課題を発見し、それを突き詰めていく力を育成する。	3,5 14	
進路分析会を毎年開催し、学年や担任の指導のノウハウの伝達や継承、改善を図る。		6,22 23		
保健厚生	生徒の心身の健康増進	健康の推進や環境整備を通して、生徒の健康の維持・増進を図る。	15	
		定期健康診断が円滑かつ効果的に行えるよう体制を強化する。	15	
		感染症予防体制の強化を図る。	15	
		養護教諭不在時の応急処理体制の強化を図る。	15, 16	
		感染症、栄養、運動、休養、保健室等の利用状況について「保健室だより」を月1回発行する。	15, 16	
		保健厚生部広報紙「英」を年1回発行する。	15, 16	
	安全で快適な教育環境の維持に努める	ゴミ処理の分別が円滑に行えるよう、生徒への指導を徹底する。	15	
		短時間で効果的な清掃が行えるよう清掃方法を指導する。	15	
		防災訓練を実施し、非常時の安全確保に備える。	15	
		エアコンの使用について、使用温度等の規則の徹底を図る。	15	
		大掃除の実施時期と係分担を定め、効率的・効果的に環境の美化に努める。	17	
		奨学生募集のインターネット化に対応できるよう、厚生係の体制の強化を図る。	17	
		専門家による性教育を実施する。	15	
		特別支援教育の充実を図る。	12, 16	
特別活動	ホームルーム活動の充実を図る。	年間計画に従い、計画的なロングホームルームの運営を行う。	17,20	
		ホームルーム活動指導資料集の活用を進めるとともに、キャリアパスポートを活用し規律や協調性を養う。	14	
	部活動の活性化を目指す。	学業との両立を基本に、より活発な部活動を目指す。	13, 19,22	
		文化部への積極的な参加を促し、バランスのとれた部活動編成に努める。	13,19	
		施設・設備の整理・整頓に努め、自ら活動環境を整えようとする意識を高める。	14,15	
	開かれた生徒会活動を目指して指導する。	「生徒会ステーション」を発行し、ICTの活用を推進するなど広報に努める。	20,21	
		生徒会活動を手伝うボランティアを一般生徒から広く募り、一緒に生徒会活動を行っていく。	8,20	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
図書	図書館利用の促進	図書関連行事の徹底を図る。	16	
		書籍、資料等の利用を促進させる。	13	
		図書委員会活動を活性化させる。	13	
		ICTを活用した、書籍・資料の充実に努める。	13	
渉外	学校に対する保護者の意識を高め、保護者との連携を図る。	学校の教育活動広報のため、PTA広報紙を発行する。	18	
		社会人(卒業生)による職業講話を実施し、生徒の進路選択に資する。	5	
		長期休業中に保護者と協同して巡視を行う。	18	
		コロナウイルス感染拡大状況を鑑み、ICT活用等感染防止対策を講じてPTA活動を行う。	15,18	
	同窓会との連絡を密にし、同窓会活動に協力する。	同窓会役員と定期的に連絡を取り、情報交換に努める。	18	
		同窓会幹事に学校の動向を伝える。	18	
1学年	基本的な生活習慣の確立	挨拶・身だしなみ・時間厳守・言葉使い・清掃を通し、基本的な生活習慣を確立する。	5, 6	
		周囲に対する思いやりの気持ちを持たせ、集団生活に適応できる人材を育成する。	8, 9	
	学習習慣の確立と基礎学力の定着	授業を第一に予習・復習を励行し、基礎・基本を身につけさせる。	2, 3	
		ICTを活用したよりよい授業の在り方を研究する。	7	
		朝ドリル・課外授業に積極的・継続的に取り組ませる。	3, 17	
	進路指導の充実	早期から進路意識を持たせ、進路研究を進めさせる。	6, 21	
		個別面談・ホームルーム・集会・講演会等を活用し、自己の将来像を持たせる。	4, 5, 6	
	2学年	基本的な生活習慣の確立	端正な服装、容儀の保持や挨拶などの指導。時間厳守の行動の励行。	
心身ともに健康で情操豊かな生徒の育成		学校行事、部活、課外等に積極的に参加させ、強い体力、精神力を養うとともに自ら考え、責任ある行動がとれるようにする	13, 14, 15	
学習習慣の改善と進路探究活動の充実		授業を第一とし、予習・復習を含めた家庭学習とドリル、課外等に継続的に取り組ませる。	3	
		面談、HR、講演会、模試等を活用し、進路希望実現のための支援を多角的に行う	4, 6	
3学年	基本的な生活習慣の確立	社会人として必要なTPOに応じた言動(挨拶・身だしなみ・時間管理・マナー・思いやり等)を励行し、継続的に実践できるようにする。	8, 9	
	心身ともに健康で情操豊かな生徒の育成	担任・副担任と生徒との信頼関係をもとに、生徒の良い面をさらに伸ばすよう適切にアドバイスする。	4	
		学校行事、部活、清掃、課外等に参加させ、心身を鍛え、自ら考え責任ある行動がとれるようにする。	13, 14	
	進路希望実現への支援	授業を第一とし、予習・復習を含めた家庭学習とドリル、課外等に継続的に取り組ませる。	1, 3, 7	
		個人面談、HR、講演会、模試等を活用し進路希望実現のための支援を多角的に行う。	4, 5, 6	
	組織力の向上	いじめや事故の未然防止のため、学年会等を活用して教員間で生徒情報を共有する。	8	
		学年団で教務の分担やノウハウ・データの共有を積極的に行う。	17	

* 評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない